

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:産業科学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育プログラム(社会人教育プログラム)への協力、産学連携や起業のノウハウを学ぶ学際融合科目「産業科学特論」の開講、独自予算を多く用いて博士後期課程学生31名への経済的支援100%を達成したことが評価できる。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		グローバル展開推進のための国際共同研究を8件採択している。また、海外機関とのネットワークの強化を図り、グローニンゲン大学と連携オフィス構想等について協議を開始したり、米国パデュー大学やimecと人的交流や共同研究を実施していることが評価できる。
【産学連携】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		企業リサーチパークにおける産学連携を中心とした産学連携活動により、産学連携共同研究134件(うち5,000万円を超える受託研究件数4件)を実施したことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		グローニンゲン大学とともに2大学4研究所による「データサイエンスを活用したマテリアルサイエンス研究」に関する共同研究を開始するとともに、産研内にグローニンゲン大学大阪大学オフィスの設置を完了したことが評価できる。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		企業リサーチパークのスペース利用率を88%まで向上させたこと、産学連携活動によって外部獲得資金総額を維持していること、産研からのプレスリリースをEurekaAlertとAlphaGalerioへも積極的に配信した結果、海外報道件数は平成28年度29件に対して、平成29年度は153件と、5.3倍になったことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

共同研究・受託研究の受入について、金額は相手先の事情などもあり低下しているものの、件数については、意欲的に取り組むことで実績を向上させたことが評価できる。
また、常勤教員公募に占める国際公募の割合、常勤教員基礎データ入力率の向上に取り組み、100%を達成している点が評価できる。